

クローズアップ。 日・光・人

日光市で活躍している人、サークルを紹介します。

サークル



先日、甲子園球場で行われた夏の全国高校野球選手権大会。栃木県代表となった文星芸術大学附属高等学校で投手として活躍した佐藤祥万さんを紹介します。

昨年、今年と2年連続で夏の全国大会に出場した佐藤さん。最上級生で迎えた今大会を振り返り、「昨年は2年生だったので、先輩方に甲子園に連れていってもらったという感じでしたが、今年は3年生として『みんなを引っ張っていかねければ』というプレッシャーがありました。でも、最後にはチーム全員が一

つになれました。その結果として甲子園で2勝し、3回戦まで進めたのだと思います」と話してくれました。また、佐藤さんはさわやかな笑顔のイメージとは裏腹に、すぐ熱くなり冷静さを失ってしまうそうです。「帽子のつばに『平常心』と書いて、それを見て落ち着くような心がけていました」とも話してくれました。

所野小学校時代の監督に話を聞くと、「彼は小学生とは思えないほど高い意識を持ち、目標に向かって流されることなく努力していました。その努力を今でも続けているから、

2年連続で全国大会に行けたのだと思います」と、教え子の活躍を当時から確信していたようでした。

お母さんによると、「小さいころから、よく練習し、よく食べ、よく寝ていました」という佐藤さん。甲子園球場を夢見る小・中学生へのメッセージを求めると、「夢は見るものではなく、実現させるものです。そのためには、やはり練習しかならないと思います」と照れながら答えてくれました。

佐藤さんにとってこの夏は、全国大会終了後も、日米親善高校野球大会に参加する全日本選抜チームの一員としてアメリカに遠征するなど、とて



佐藤さんの甲子園球場での力投。(写真提供:下野新聞社)

も忙しいものとなりました。小学校の卒業文集に「大きくなったらプロ野球の選手になって、親に家をプレゼントする」と書いたという佐藤さん。その夢を実現させ、プロ野球のマウンドで活躍する佐藤さんの姿をぜひ見たいと願っています。



さとう しょうま
佐藤 祥万 さん

所野 在住

夢は見るものではなく、実現させるものです



足尾和太鼓チーム 銅

あかがね

和太鼓は、参加した全員が主役になり、自分が輝く場所をつくられます

なります。小学生も、楽譜を見ながら何度もリズムを口ずさみ一生懸命練習していました。小学3年生の高野紅依さんは、「最初はできなくても、続けて練習しているとうまくなれるからうれしい」と笑顔で答えてくれました。

主な活動は、足尾地域で開催される足尾芸術祭や成人式での演奏、市内外の各種イベントへの参加などです。また現在は、足尾小学校(4、6年生)で実施している和太鼓活動の指導も行っています。

代表の菅野さんは、和太鼓の魅力をこう話します。「和太鼓は、参加した全員が主役になれます。そして、さまざまなイベントに出演することで、自分が輝く場所をつくる

「足尾和太鼓チーム 銅」は、平成12年に結成されたサークルです。小学生から50歳代の人までさまざまな年齢のメンバーが楽しく活動しています。足尾地域以外に、日光や今市地域、群馬県みどり市から練習に参加しているメンバーもいます。日光地域から通っている、小学5年生の岡部百可さんは、「市内のイベントで演奏を聞き、自分もやりたい」と思いメンバーになりました」と話してくれました。

練習前は笑い声の絶えない明るい雰囲気ですが、練習が始まると全員が真剣な表情に



講堂での練習の様子。練習中はみんな真剣な表情です。

活動データ

主な活動日 毎週水曜日
活動拠点 足尾小学校講堂
活動内容 和太鼓の練習・各種イベントへの参加など
人数 20名
代表 菅野 伸光
問い合わせ先 事務局 池口 敏夫
☎(93)3322
(足尾公民館内)

紹介したい人、サークルを募集します

クローズアップ日・光・人では、日光市で活躍している人、サークルを紹介していきます。このコーナーで紹介したい人やサークルの情報がありませんら、ぜひお寄せください。なお、自薦、他薦は問いません。※広報にこの掲載にふさわしくない活動内容が含まれている場合、紹介をお断りすることがあります。

連絡先及びくわしくは
秘書広報課 広報広聴係
☎(21)5135